

第6回 港湾における i-Construction 推進委員会 議 事 概 要

日 時：令和5年3月3日（月） 10：00～12：15

場 所：（一財）港湾空港総合技術センター 2階会議室 および Web 会議

1. 主な議事

○事務局より、本年度の委員会での取り組み内容等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

- 港湾構造物の出来形を計測する ICT 機器の要求精度は、橋梁上部工と同じではなく、港湾構造物の出来形の許容範囲と同程度の精度でもよい。実施予定の中小企業向け ICT 活用モデル工事等で ICT 機器の精度を検証し、港湾構造物工の要領に反映していくことが必要。
- ICT 施工という観点で、従来の2次元での出来形管理の規定値等について、見直しも視野に入れた検討へ本格的な取り組みが必要。
- 床掘をはじめ海上工事に関しては適切な潮位の把握が問題となる。施工履歴による出来形管理の適用にあたっては、海上作業位置での正確な潮位情報の把握などを検討していく必要がある。
- 実施予定の中小企業向け ICT 活用モデル工事は施工者提案型としており、その実施過程で適用可能な技術や機器を選定していく方向となるが、ある程度、発注者から推奨的な技術や機器を示した方が受注者にはわかりやすく、提案しやすいと考えられる。
- 安全対策重点モデル工事の対象が作業船のクレーン作業を伴う工事に限定されているが、例えば、船舶に取り付ける安全監視カメラなど、安全対策に効果のある機器の使用も対象として考慮すべき。
- BIM/CIM 原則適用で、細部・実施設計での BIM/CIM モデル作成が必須となるが、これに伴い設計段階で作成された BIM/CIM 成果の施工段階への確実な引渡しに留意していく必要がある。
- 維持管理段階での BIM/CIM の活用については、実際に維持管理を担う港湾管理者に要望等をヒアリングすることで、活用の方向性を明確にしていくことが必要。
- 遠隔臨場は、実施するレベルを分けた方が、施工者が取り組みやすくなると考えられる。
- 生産性向上の効果は、算出の前提条件や指標等によって結果が異なるので、算出方法等については十分な検討が必要である。

以 上